

中国語の形容詞述語文の文完結に関する一考察

江蘇省の江淮官話を中心に

鎮 守 琳

An Examination of Sentence Completion in Adjective Predicate Sentences:
Focusing on Lower Yangtze Mandarin in Jiangsu Province

CHINJU Lin

Abstract

The degree adverb “很 (hen)” is often used in standard Mandarin to complete adjective predicate sentences. This study investigates its usage as a degree adverb in the context of the Lower Yangtze River Standard Chinese, specifically in Jiangsu Province, with the aim of ascertaining whether sentence completion patterns in this dialect reflect those of Standard Mandarin. We selected three regions within Jiangsu Province, Nanjing, Nantong, and Shuyang, for analysis. We then evaluated the sentence completion of adjective predicate sentences and the degree adverbs, utilizing survey results from the “Linguistic Atlas of Chinese Dialects-Grammar” published in 2008. The results indicate that “很(hen)” is commonly used in adjective predicate sentences in the Central Plains Mandarin dialect spoken in both Jiangsu Province and neighboring Anhui Province. As for the sentence completion of adjective predicates in Nanjing, Nantong, and Shuyang, sentences are generally completed with degree adverbs and sentence-ending particles. Notably, when an adverb closely associated with a specific dialect is used, sentence completion requires not only the degree adverb but also the addition of a sentence-ending particle.

Keywords : 江淮官話、江蘇省、形容詞述語文、文完結、文末助詞

はじめに

中国語における形容詞述語文¹⁾とは、述語が形容詞によって構成される文を指す。現代中国語の標準語となる普通話において程度副詞のない形容詞述語文は、言い切りができないか、あるいは、比較・対照の意味が前面化する。そのため、形容詞の前に程度副詞“很”をつけることにより文完結あるいは比較・対照の意味の前面化を回避する。これらの現象は、主に平叙文の場合に発生する。

言語はその変遷の過程で変化の痕跡を残すことがあり、方言に現れることもある。程度副詞“很”を形容詞の前につけてはじめて文が完結するという現象は、中国語の普通話にみられる傾向である。そこで、本稿では、方言にも同様の現象が起きているのかを解明すべく、江蘇省の江淮官話に焦点をおき、考察することとする。江蘇省にある南京、蘇州は歴代王朝の都である。また、南京方言に基づく南京官話は、かつて勢力をもっていた。例えば、日本では1876年(明治9)以前は、南京官話を学んできた²⁾。さらに、江蘇省の省内は江淮官話だけでなく、呉方言、中原官話が存在し、言語間の交渉現象が見られる地域でもある。

そこで本稿は、江蘇省の江淮官話を対象とし、江蘇省の江淮官話において、形容詞述語文の中での程度副詞の使用状況、特に“很”の使用状況を考察する。また、形容詞述語文の文完結では、どのような文要素で文完結するのかを考察する。考察の前に、江蘇省の地理的な位置、中国全国における江淮官話の分布状況および江蘇省における江淮官話の分布状況など基礎的な情報などを提示する。考察方法として、まず、先行研究である2008年出版の『漢語方言地図集 語法巻³⁾』(以下、『語法巻』)の調査結果に基づき、形容詞述語文の場合の程度副詞の使用状況をまとめ論じる。次に、江蘇省の江淮官話の南京、南通、瀋陽の3つの地域を取り上げ、この3つの地域の形容詞述語文の文完結状況を論じていく。最後に、江蘇省の江淮官話における形容詞述語文の文完結状況をまとめる。

一、江蘇省の位置・言語の概略

1.1 江蘇省の地理的な位置

江蘇省は下記図1の通り、中国の東部に位置し、華北地区に属する。北部は山東省、西部は安徽省、南部は浙江省・上海市と接している。2023年3月現在、江蘇省を構成しているのは、

1) 本稿における「形容詞」という用語は特別な説明がない限り、一般的に「性質形容詞」を指す。方言においていう「形容詞」も、普通話でいう「性質形容詞」にあたるものを指す。

2) 六角 1955: 251-262.

3) 曹志耕 2008.

南京市（省都）、無錫市、徐州市、常州市、蘇州市、南通市、連雲港市、淮安市、塩城市、揚州市、鎮江市、泰州市、宿遷市の13市⁴⁾である。

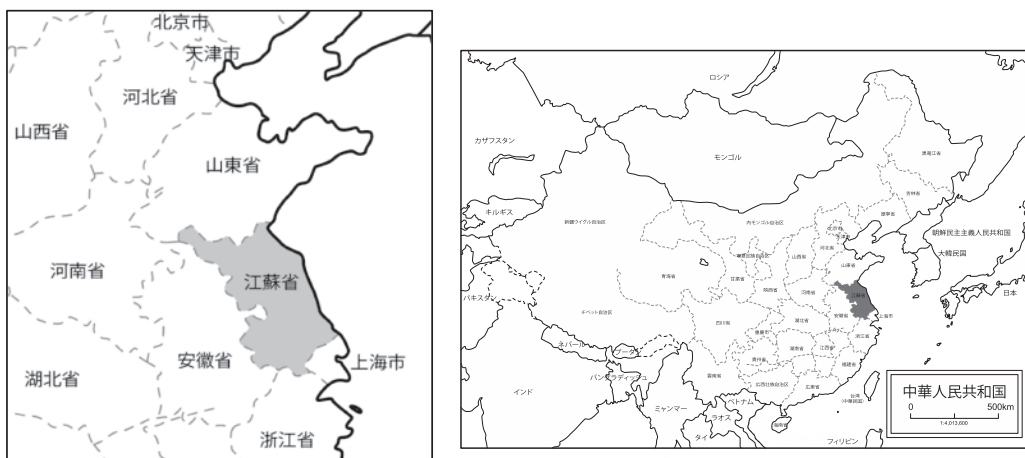


図1 江蘇省の地理的位置

出典：本稿の地図は、白地図専門店 (<https://www.freemap.jp/>) 提供のフリー素材に基づくが、図の見やすさを考慮して、筆者が若干の加工をしたものである。

普通話の形容詞述語文の文完結の役割をする程度副詞“很”は、文中で「“很”+形容詞」と「形容詞+“得”+“很”」の2つの構造をとることができる。その中の文構造「形容詞+“得”+“很”」について、王国栓らは歴代の文学作品で使用されている言葉の分析から「“据此我们推测，“A 得很”这一格式不是北京方言的固有格式，而是从江淮、兰银、西南等方言中传播过来的，而江淮官话在其中起了至关重要的作用⁵⁾」（江淮官話、中原官話、西南官話、蘭銀官話から伝わってきたもので特に江淮官話が重要な役割をしている⁶⁾）」と述べている。

つまり、江淮官話は、普通話の形容詞述語文の文完結を解明する上で、重要な役割を担っていると考えられる。

1.2 江蘇省の江淮官話

『中国言語地図集（第2版）⁷⁾』によると官話は、東北官話、北京官話、冀魯官話、胶遼官話、中原官話、蘭銀官話、江淮官話、西南官話の8種類に分けられる。8種類の官話の中の一つである江淮官話は、主に安徽、江蘇、浙江、湖北、江西などの地域に分布している⁸⁾。分布してい

4) 江蘇省人民政府「政区沿革」(<http://www.js.gov.cn/col/col88750/index.html>) (最終閲覧日2023年7月19日)

5) 王国栓・寧彦紅 2002: 69.

6) 中国語の原文に対する日本語の訳文は特別な説明がない限り、筆者訳になる。以下、同様。

7) 中国社会科学院语言研究所《中国言語地図集（第2版）》北京：商务印书馆（2012）

8) 同上、《A2中国汉语方言》の地図を参照されたい

る地域の中のうち江蘇省では、図2で示されている通り、南側から北側に向かって呉方言、江淮官話、中原官話となっている。



図2 江蘇省の言語分布

二、2008年出版の『漢語方言地図集 語法卷』

『語法卷』は、102の文法項目について全国で調査をし、その調査結果を収録したものである。本稿では、『語法卷』の102の文法項目のうち、下に挙げる3つの文法項目“今天很冷”（以下「A構造」）、“今天冷得很”（以下「B構造」）、“今天冷很”（以下「C構造」）を取り出し検討をする。ここでは、主に文中で使用している程度副詞“很（とても）”に対し、江蘇省ではどのような程度副詞を使用しているかを分析する。程度副詞“很”以外の語彙、例えば“今天(今日)”“热(熱い)”などの方言間の相違については、今回の考察対象外とする。

- A 構造：今天很冷 「程度副詞＋形容詞」構造
- B 構造：今天冷得很 「形容詞＋“得”＋程度副詞」構造
- C 構造：今天冷很 「形容詞＋程度副詞」構造

A 構造は、「程度副詞＋形容詞」構造で、程度副詞が形容詞の前にくる構造になっている。B 構造は、「程度副詞＋“得”＋形容詞」構造で、程度副詞が形容詞の後ろの位置にあり、程度副詞と形容詞の間に“得”を挟む構造になっている。C 構造は、「形容詞＋程度副詞」構造で、程度

副詞が形容詞の後ろにあり、形容詞と程度副詞の間はB構造のように“得”を挟まない構造になっている。『語法卷』では、江蘇省の江淮官話において、下記の通り、計17箇所について調査を行っている。

調査地区：

南通、灌雲、漣水、射陽、泗洪、宝応、盱眙、東台、
江都、如東、如皋、泰興、揚中、南京、句容、丹徒、靖江官

この17箇所の調査地区を地図上で示すと図3の通りになる。



図3 『語法卷』における調査地区

さらに、『語法卷』の調査結果をもとに、程度副詞の使用状況を先に示したA、B、C構造別に表1にまとめた。

表1 A、B、Cの3つの文構造における程度副詞の使用状況

	地名	今天很热 (A 構造)	热得很 (B 構造)	热很 (C 構造)
1	南通	好	很	很
2	靖江官	很	很	×
3	灌雲	很	很	×
4	丹徒	蛮, 很	很	×
5	漣水	很	很	×
6	射陽	蛮, 很	很	×
7	泗洪	很	很	×
8	宝応	蛮	很	×
9	盱眙	很	很	×
10	東台	蛮	很	×
11	江都	蛮	很	×
12	如東	很	很	×
13	如皋	多	很	×
14	泰興	蛮, 很	很	×
15	揚中	蛮	很	×
16	南京	很	很	×
17	句容	很	很	×

『語法卷』に基づき作成したもの

表1に示されている通り、調査地区の中で南通は、唯一A、B、Cの3つの構造が共存していることがわかる。一方、残りの16箇所ではAとBの2つの構造が共存しており、C構造はない。B構造の場合、全ての調査地域において、普通話と同様に“很”が使用されることがわかる。しかし、A構造における程度副詞の使用は、地域によってばらつきがある。以下に示す通り、“很”のみの使用が多い地域や、“蛮”のみの使用が多い地域、または、“很”“蛮”両方の使用地域もあれば、如皋と南通のようにそれぞれ“多”“好”などを使用する地域もある。

- “很”の地域：灌雲、漣水、泗洪、盱眙、如東、南京、句容、靖江官（計8箇所）
- “蛮”の地域：宝応、東台、江都、揚中（計4箇所）
- “蛮”か“很”の共存地域：射陽、泰興、丹徒（計3箇所）
- “多”か“好”の地域：如皋、南通（計2箇所）

表1の結果を図4の、地図上に示すことにより、視覚的に程度副詞の分布状況を理解しやすいようにした。図4で表記している数字の「2」は“蛮”か“很”の共存地域の「射陽、泰興、丹徒」を指している。

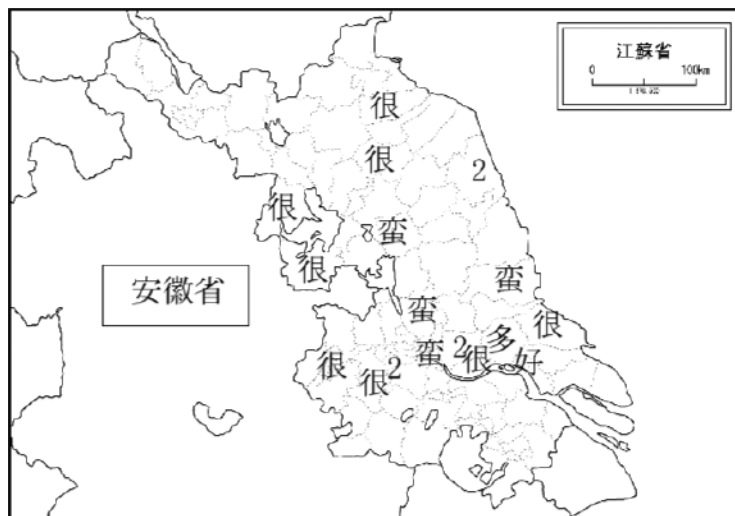


図4 『語法卷』に基づくA構造の程度副詞の使用状況

図4から、うかがえることとして、次の2点が挙げられる。1点目は、江蘇省の中原官話、安徽省に近い地域ではA構造の場合、程度副詞“很”の使用が目立つことである。2点目は、江蘇省の呉方言に近い地域では、“很”を使用する地域もあれば、“蛮”を使用する地域、あるいは、“好”や“很”“蛮”の両方を使用する地域が存在していることである。

三、『漢語方言地図集 語法卷』以外の先行文献

ここでは、『語法卷』以外の先行文献において、主に形容詞述語文の文完結についてどのような記述をされているかについて述べていく。取り上げる地域は、上記でも述べた通り「南京、南通、瀟陽」の3つの地域とし、順に述べていく。

3.1 南京方言

南京は江蘇省の省都であり、明初、民国の時の都でもあった。『語法卷』の調査結果として南京方言は、A、B、Cの3つの構造のうち、C構造の表現方法はなくA、Bの2構造の共存になる。下記で示した通りA、B構造の場合に使用している程度副詞は、2構造ともに“很”になる。

- 文構造の提示：
- A構造 “很” + 形容詞
 - B構造 形容詞 + “得” + “很”
 - C構造 なし

ここでは、A構造とB構造について順に述べていく。

まずA構造を確認すると、南京方言における形容詞述語文は、普通話と同様に程度副詞がない場合には対比の意味が含まれる。そのため、程度副詞などを加えることにより文の対比の意味を解消することができる。この点について張薇は、「“很”和“蛮”在实际中的使用，有时候并不表示程度高，而仅仅是为了满足语法上的需要，不让句子含有对比的意思⁹⁾。（“很”と“蛮”とも実際の日常生活の中で使用されるものの、場合によっては程度を表していない。単なる文法上の必要によるもので文の対比の意味をなくすためでもある。）」と説明する。

つまり、南京方言における程度副詞のない形容詞述語文は、比較の意味があり、例(1)のように程度副詞“蛮”、“很”を形容詞の前につけることにより、文完結することがわかる。しかし、“蛮”を使用した場合には、例(1)でわかるように文末に“的”との共起が必要となるか、あるいは、例(2)“雨蛮大，你不要出去了。”のように形容詞述語文の“雨蛮大”の後ろに後続文をつけることにより文完結する。一方、“很”の場合には、普通話と同様、文末には“的”との共起を必要とせず、例(1)のように“我很好”で文完結できる。

- | | |
|----------|----------------------------|
| (1) 南京方言 | 我蛮好的。 ¹⁰⁾ |
| 南京方言 | 我很好。 ¹¹⁾ |
| 日本語 | 私は元気だ。 |
| (2) 南京方言 | 雨蛮大，你不要出去了。 ¹²⁾ |
| 普通話 | 雨很大，你不要出去了。 ¹³⁾ |
| 日本語 | 雨が強いから、外に出かけないで！ |

また、「“蛮”+形容詞+“的”」構造の場合、文完結の役割をする“蛮”は、音声上軽く発音する必要がある。この点について戴雯君らは次のように述べている。

“蛮”之所以在南京话中使用频率很高，是因为在很多场合的使用中，“蛮”的使用并不一定表示程度高，而只是为了满足语法上的需要。例如：“这张纸蛮薄的。”在这个句子中，“蛮”需要轻读，事实上它并不强调程度有多高，而是为了减少比较的语¹⁴⁾。

“蛮”は南京方言の中で使用頻度が最も高いとされている。その理由は、多くの場合、“蛮”の使用は単なる程度の高いことを表すだけでなく、文法上の必要性を満たすのみである。

9) 張薇 2011 : 40.

10) 張薇 2011 : 40.

11) 同上 : 40.

12) 張薇 2011 : 39.

13) 同上 : 39.

14) 戴雯君・魯芸・任蒼翠・徐付婕・張嫣 2018 : 220.

例えば“我蛮好的”の中の“蛮”は軽く発音する必要がある。したがって“蛮”は程度の強調を表しているのではなく、比較のニュアンスを減らすためである。

つまり、南京方言の形容詞述語文において使用される程度副詞“蛮”は、音声上軽く読む必要があり、その場合には程度を表すというより、比較の語気を減少させるためである。

さらに、南京方言における“蛮”は、典型的な書面的な語、例えば、“悲愤（悲しみと憤り）”、“迅猛（急激だ）”、“审慎（周到で慎重だ）”などと組み合わせることはできない。つまり、“*蛮悲愤”、“*蛮迅猛”、“*蛮审慎”などの言い方はない。しかし、南京方言における“很”は、“很悲愤”、“很迅猛”、“很审慎”などの言い方が可能である。また、“蛮”と“很”の連用の場合には、「这个人蛮懒的。哪是蛮懒的啊，就是很懒，懒死了¹⁵⁾。」（あの人は本当に怠け者だ、いや、普通の怠け者ではなく、とても怠けている、いや、超がつくほど怠け者だ。）のように“很”の表す程度は“蛮”より強い。南京方言の“蛮”は方言色のある語であることについて張薇¹⁶⁾、周益全¹⁷⁾も言及している。

次に、B構造を確認する。B構造である「形容詞+“得”+“很”」構造は、普通話と同様、形容詞などの後ろに“得”（発音は[·ti?]あるいは[·ta?]）をつけ「“这小孩儿厭得很¹⁸⁾”（この子供は本当にいたずらっ子だ。）」のように使われる。

南京方言についてここまで検討してきたA、B、C構造の文完結状況および程度副詞の使用状況を下記の表2の通り示す。

表2 南京方言におけるA、B、C構造の文完結状況および程度副詞の使用状況

文の構造	程度副詞の使用状況	文完結
A	很	文完結する
	蛮	文完結するが、文末に“的”との共起が必要
B	很	文完結する
	蛮	
C	很	
	蛮	

南京方言における程度副詞のない形容詞述語文は、普通話同様、文の言い切りができないかあるいは、比較・対照の意味を表す。そのため“很”“蛮”を形容詞の前につけることにより文完結することができる。“蛮”は“很”より方言色のある語として、文中では一般的に「“蛮”+形容詞+

15) 張薇 2011 : 39.

16) 同上 : 39-40.

17) 周益全・蔣沁雪・江穎・孫純・徐睿 2017 : 34.

18) 李榮 1995 : 271.

“的”構造をとり、文末に“的”との共起が必要である。形容詞述語文における“很”は普通話と同様の使用が観察される。また、補語として使われる「A + “得” + “很”」構造も存在するが、この構造も普通話と同様の使用がみられる。“很”“蛮”によるC構造は存在しない結果となっている。

3.2 南通方言

南通は江蘇省の南側に位置し、南側は呉方言地区になる。『語法卷』の調査結果として南通方言は、A、B、Cの3つの構造の共存地区である。程度副詞は、下記で示した通り、A構造の場合には“好”、B、C構造の場合には“很”の使用になる。

- 文構造の提示：
- A 構造 “好” + 形容詞
 - B 構造 形容詞 + “得” + “很”
 - C 構造 形容詞 + “很”

ここでは、A構造とB、C構造の2つにわけ説明していく。まず、A構造を見てみる。南通方言におけるA構造の形容詞述語文の文完結について敖小平は、次のように述べている。

南通方言形容詞也有謂與非謂之分。無論用作謂語還是修飾語，大多數情況下都必須加用後綴“的”音 di (中略) 有些形容詞必須加用“是”“蠻”“老”等方可作謂語 (後略)¹⁹⁾

南通方言の形容詞にも述語になれるものもあればなれないものもある。もちろん、述語ないし修飾語として用いられる場合、大多数の状況においては必ず形容詞の後ろに後続詞“的”をつけなければならない。音は di である。(中略) ある形容詞は必ず“是 (である)”“蠻 (とても)”“老 (とても)”をつけることにより述語になれる (後略)

つまり、南通語において形容詞が述語になる場合には、多くの場合、形容詞の後ろに“的” (音は「di」) をつける必要がある。例えば、「形容詞 + “的”」、「程度副詞 + 形容詞 + “的”」、「是 + 形容詞 + “的”」などの構造で文完結する。「是 + 形容詞 + “的”」構造例えば「今朝子是陰勢冷²⁰⁾」(今日は寒い) は、判断句になる。このような判断句は、程度副詞や文末助詞がなくても文完結できる。例えば、「今朝子是陰勢冷」を“今朝子陰勢冷²¹⁾”で言い表すことも可能である。また、「形容詞 + “的”」、「程度副詞 + 形容詞 + “的”」構造で表現できるかどうかに関して

19) 敖小平 2017 : 632.

20) 敖小平 2017 : 632.

21) 同上 : 633.

は、形容詞による。例えば、「“牙齒射的²²⁾。”（出っ歯だ）」のような構造の言い方はできても“*牙齒蠻射的²³⁾”の言い方はできない。反対に、「“天蠻冷的²⁴⁾。”（今日は寒い）」の言い方はあっても“*天冷的²⁵⁾”の言い方はしない。さらに、「“咯侯忽的²⁶⁾（こいつはダメだ）」「“咯侯蠻忽的²⁷⁾”（這傢伙挺差勁）」のように2つの構造に対応できる形容詞もある。つまり、南通方言における形容詞述語文は、「形容詞+“的”」か「程度副詞+形容詞+“的”」構造で文完結が可能で、2構造とも文末には一般的に“的”が必要である。文末の“的”の発音は、地域によりばらつきがあるが、紙幅の都合上、本稿では詳述しない。

南通方言にも程度副詞“很”は、形容詞述語文で使われる。例(3)“很便当”のように形容詞の前に“很”をおき、文構造として「程度副詞+形容詞」構造をとる。文構造として普通話と同様である。

- | | |
|----------|---|
| (3) 南通方言 | 现在跑居委会跑几分钟就到勒，要办什呢事很便当。 ²⁸⁾ |
| 普通話 | 现在跑到居委会只需要几分钟，要办什么事情很方便。 ²⁹⁾ |
| 日本語 | 今は住民管理会に行くのも数分ですみ、何をするにも便利だ。 |

南通方言での程度副詞“很”の使用について、王鬱は、次のように“很”の使用の急増を指摘する。

南通話中的程度副词“很”最近几年的使用频率有上升的趋势，这大概是受普通话的影响，当然也和南通话中程度副词“交关”和“稀”在新派南通话中使用频率下降乃至消亡有关，其用法和普通话类似³⁰⁾。

南通方言の“很”は、ここ何年間、使用頻度が急増しつつある。これはおそらく普通話の影響であろう。もちろん南通話の程度副詞“交关”と“稀”は新しい世代の南通語では使用率が下がり、ひいては消失していることと関連する。“很”の用法は普通話と類似している。

つまり、南通方言では、A構造の場合『語法卷』で示した程度副詞“好”以外にも“蛮”な

22) 同上：622.

23) 同上：622.

24) 同上：622.

25) 同上：622.

26) 同上：622.

27) 同上：622.

28) 王郁 2018：47.

29) 同上：47.

30) 同上：47.

どがあり、“很”の使用も増えつつあるということを示唆している。

次に、B、C構造を見てみる。B構造は、例(4)のように南通方言の“我懒得很”の言い方は普通話と変わりはない。C構造の場合には、例(5)のように後ろに必ず語気詞とされる“叨 [ty]”³¹⁾ [ne]”³²⁾と共起し「形容詞+“很”+“叨”」構造をとる。C構造は普通話にない構造でもある。

- (4) 南通方言 我懒得很, 不想动。³³⁾
 普通話 我懒得很, 不想动。³⁴⁾
 日本語 私は非常に怠けているため、動きたくない。
- (5) 南通方言 你对她好很叨, 她格朝子嗲了啦。³⁵⁾
 普通話 你对她太好了, 她现在开始摆起谱来了啦。³⁶⁾
 日本語 彼女に優しすぎたから、現在彼女は偉そうにしている。

普通話にないC構造ついて、張穎煒は、「“南通话中程度副词“很”直接用在性质形容词、动词之后作补语，中间不需要结构助词，但句末必须带上语气词“叨 [ne]”，否则不自足（后略）³⁷⁾」“(南通方言の程度副詞“很”は直接性質形容詞・動詞の後ろに用いられて補語として使われ、両者その間には構造助詞を必要としないが、文末には必ず語気助詞“叨 [ne]”が必要である。そうしなければ文として完結できない。(後略)」と説明する。つまり、南通方言における程度を表す“很”の位置が形容詞の後ろにつく場合には「形容詞+“得”+“很”」構造より「形容詞+“很”+“叨”」構造をとる。また、「形容詞+“很”+“叨”」構造で作られた文は、例(5)で示した通り、一般的に日本語でいう「あまりにも」「～すぎる」の意味を表す。さらに、“很”は、例(6)の“吵很叨”のように一般動詞にもつくことが可能である。この場合も、文は日本語で言う「あまりにも」「～すぎる」の意味を表す。

- (6) 南通方言 格甚伢儿吵很叨, 房子顶也要挨掀翻叨。³⁸⁾
 普通話 这些小孩太吵了, 房顶都要被掀翻了。³⁹⁾
 日本語 これらの子供はうるさすぎて、まるで家の屋根まで吹っ飛ばされそうだ。

31) 王郁 2018 : 24.

32) 張穎煒 2005 : 31.

33) 王郁 2018 : 48.

34) 同上 : 48.

35) 張穎煒 2005 : 31.

36) 同上 : 31.

37) 同上 : 31.

38) 張穎煒 2005 : 31.

39) 同上 : 31.

南通方言についてここまで検討してきた A、B、C 構造の文完結状況および程度副詞の使用状況を下記の表 3 の通りまとめられる。

表 3 南通方言における A、B、C 構造の文完結状況および程度副詞の使用状況

文の構造	程度副詞の使用状況	文完結状況
A	很	文完結する
	蛮	文完結するが、文末に“的”との共起が必要
	好	文完結する
B	很	文完結する
	蛮	
	好	
C	很	文完結するが、文末に“叨”との共起が必要
	蛮	
	好	

南通方言では、A、B、C の 3 つの構造が共存する。A 構造の場合の文完結には 2 種類がある。一つは、形容詞の後ろに助詞“的”をつけ、文完結する。二つ目は、程度副詞を形容詞の前につけ、文完結する。しかし、二つ目の場合には、程度副詞の種類により、文末に助詞“的”の共起を必要とする。例えば、程度副詞の“很”の場合は、文末助詞“的”がなくても文を完結させることができる。一方、“蛮”は、文完結させるために文末助詞“的”が必要である。B 構造は普通話と変わりがなく、C 構造は普通話には存在しない構造であることが確認される。さらに、C 構造が B 構造よりも好まれる傾向が見られる。C 構造は、日本語において「あまりにも」「～すぎる」といった程度が極端に甚だしい表現や、常識や予想を超える度合いを表す際に用いられる。

3.3 沭陽方言

沭陽方言は江淮方言に属し、中原方言と隣接している。沭陽方言の中でよく使われている単音節の程度副詞には、“很、多、精”などがある。楊明⁴⁰⁾、張静⁴¹⁾などの先行研究において、沭陽方言の形容詞述語文の文完結についての言及はしていない。そのため、ここでは沭陽方言における程度副詞“很”に着目し、論じていく。

まず、A 構造を見てみる。下記で示すように、“很”が形容詞の前につき状語として使われる場合には、文末に必ず助詞である“的”、“了”、“的了”の共起が必要である。

文構造の提示：・“很”+単音節形容詞+“的”

40) 楊明 2012: 48-50.

楊明 2013: 189-190.

41) 趙静 2018.

- “很” + 単音節形容詞 + “了”
- “很” + 単音節形容詞 + “的”
- “只很” + 2 音節形容詞 + “的”
- “只很” + 2 音節形容詞 + “了”
- “只很” + 2 音節形容詞 + “的”

普通話でいう“今天天气很热”は、瀋陽方言で“这天天很热的⁴²⁾”あるいは、“这天天很热了⁴³⁾”になる。“很”の前に“只”がつく場合には、形容詞が2音節の場合が多い。単音節の場合でも“很”の前に“只”を加えることも可能である。また、楊明“只”は普通話の“就”に相当し、強調を表す⁴⁴⁾という。

瀋陽方言における形容詞の前につく“很”は形容詞だけでなく、動詞や名詞の前につくことも可能である。名詞の前につく場合には、程度というより、数量の多さを表す。例えば、「我们家(只)很(些)人了⁴⁵⁾」は日本語で、「私の家にはたくさんの人がいる」の意味になり、「老师有很(些)书了⁴⁶⁾」は日本語で、「先生はたくさんの本を持っている」の意味になる。動詞の前につく場合には、「“我很喜欢她⁴⁷⁾。”(私は彼女のことがとても好きだ。)」のように「“很” + 動詞 + 目的語」構造をとり、必ず動詞の後ろに目的語を必要とする。

次に、C構造について見てみる。瀋陽方言において、“很”は、例(7)“好很(的)了”のように、形容詞の後ろに直接つくことが可能である。また、文として日本語でいう「とても」「非常に」の程度の高さを表す。

(7) 瀋陽方言 我身体现在好很(的)了⁴⁸⁾。(“很的 [xən³³¹ · tə⁴⁹⁾]”)

日本語 私の体は現在、非常に良い状態になっている

楊明⁵⁰⁾、張静⁵¹⁾などの先行研究において、B構造についての言及が見当たらなかった。

42) 楊明 2012 : 48.

43) 同上.

44) 同上.

楊明 2013 : 190.

45) 楊明 2012 : 48.

46) 楊明 2013 : 190.

47) 楊明 2012 : 48.

48) 楊明 2012 : 49.

49) 張静 2018 : 14.

50) 楊明 2012 : 48-50.

楊明 2013 : 189-190.

51) 張静 2018

瀋陽方言についてここまで検討してきた A、B、C 構造の文完結状況および程度副詞の使用状況を下記の表 4 の通りまとめられる。

表 4 瀋陽方言における A、B、C 構造の文完結状況および程度副詞の使用状況

文の構造	程度副詞の使用状況	文完結状況
A	很	文完結するが、文末に“的”、“了”、“的了”との共起が必要
	只+很	<ul style="list-style-type: none"> • 文完結するが、文末に“的”、“了”、“的了”との共起が必要 • 形容詞は単音節より 2 音節が多い。
B	很	先行文献 ⁵²⁾ におけるこの構造に関する論述は見当たらなかった。
C	很	形容詞+很(的)了 (“很的 [xən ³³¹ ·tə]”)

瀋陽方言の A 構造の場合には、形容詞の前に程度副詞“很”があったとしても、文末に必ず“的”“了”“的了”と共起する。例えば、「“很”+形容詞+“的”」「“很”+形容詞+“了”」「“很”+形容詞+“的了”」の構造をとる。程度副詞“很”は、名詞の前につくことも可能で、数量の多さを表す。動詞の前につく場合には、「“很”+動詞+目的語」構造をとり、必ず動詞の後ろに目的語を必要とする。楊明⁵³⁾、張静⁵⁴⁾などの先行研究において、B 構造についての言及が見当たらなかった。C 構造の場合には、「形容詞+“很(的)了”」構造をとる。

3.4 小結

以上、『語法卷』の調査結果に基づき、程度副詞の使用状況を分析し、江蘇省の南京、南通、瀋陽の 3 つの地域を取り上げ、形容詞述語文の文完結について考察した。その結果、南京および南通においては、程度副詞や文末助詞が用いられ、形容詞述語文が完結することが示された。また、程度副詞を使用する場合であっても、文末には助詞“的”の共起が必要であることが明らかとなった。

一方、瀋陽方言に関して形容詞述語文の文完結についての言及は、文献調査を行ったが、見つけることができなかった。瀋陽方言の形容詞述語文の文完結についての過去の研究や文献が限られている可能性が考えられる。しかし、“很”という使用においては、普通話には見られない使用法が観察された。形容詞述語文の中で“很”が形容詞の前に置かれる場合、文末には“的”、“了”、“的了”といった助詞の共起が必要であることが明らかとなった。

52) 楊明 2012 : 48-50.
 楊明 2013 : 189-190.
 張静 2018
 53) 楊明 2012 : 48-50.
 楊明 2013 : 189-190.
 54) 張静 2018

つまり、南京、南通、瀋陽の形容詞述語文は、普通話と同様に「主語＋述語」という構造だけでは文が完結しにくいことが示唆されている。

おわりに

本稿では江蘇省の江淮官話における使用副詞および形容詞述語文の文完結度について検討した。その結論は以下の2点である。

1点目として、普通話にある程度副詞“很”は、江蘇省の中原官話、安徽省に接する地域で多く使用されることである。

2点目として、南京、南通、瀋陽地域において形容詞述語文は、普通話と同様に「主語＋述語」という構造だけでは文が完結できず、程度副詞や文末助詞によって文が完結することが明らかとなった。特に方言色の強い程度副詞を使用する場合には、程度副詞単独では文が完結せず、文末に助詞の共起が必要とされることが示された。

以上の結果から、江蘇省の江淮官話における形容詞述語文の文完結に関する特徴が明らかにされた。今後の研究では、他の地域の方言やさまざまな文脈における形容詞述語文の文完結についての調査が必要である。

参考文献

中国語文献

- 敖小平 (2017) 《南通方言考》上海：上海辭書出版社。
 曹志耕 (2008) 《汉语方言地图集 语法卷》北京：商务印书馆。
 戴雯君・鲁艺・任荟翠・徐付婕・张嫣 (2018) 〈南京方言程度副词研究〉《校园英语》17(13)：219-220。
 江蘇省人民政府『政区沿革』(<http://www.js.gov.cn/col/col88750/index.html>) (最終閲覧日2023年7月19日)。
 李榮 (1995) 南京方言辭典 南京：江蘇教育出版社。
 王国栓・宁彦红 (2002) 〈试探副词“很”和语法格式“A得很”的来源〉
 《河北师范大学学报 (哲学社会科学版)》25(01)：68-71。
 王郁 (2018) 《南通話語法研究》广西师范学院硕士论文。
 杨明 (2012) 〈苏北瀋陽話的程度表示法试析〉《连云港职业技术学院学报》25(1)：48-50。
 杨明 (2013) 〈瀋陽方言“很”的几种特色用法分析〉《作家》2：189-190。
 张静 (2018) 《瀋陽方言副词研究》扬州大学硕士论文。
 张微 (2011) 〈南京方言程度副词“蛮”〉《语文学刊》22：39-40。
 张颖炜 (2005) 《南通話程度副词研究》上海师范大学硕士论文。
 中国社会科学院语言研究所 (2012) 《中国言語地圖集 (第2版)》北京：商务印书馆。
 周益全・蒋沁雪・江颖・孙纯・徐睿 (2017) 〈南京方言程度副词中的“蛮”〉《文化创新比较研究 语文化》17：33-34。

日本語文献

- 六角恒広 (1955) 「中国語の半世紀」『中国語学』40：251-262。